

R5年7月放送分
「日米交流事業について」
(日本の防衛Q & A)
(自衛隊百科)

R5.6.22 収録

【パーソナリティー】

本日は「日米交流事業について」というテーマでお送りします。東北防衛局から地方協力確保室の橋本室長と担当の高橋さんからお話を伺います。

お二方、よろしくお願ひします。

【二人】

よろしくお願ひします。

【パーソナリティー】

では、高橋さんは初めての出演ですので、自己紹介をお願いします。

【高橋】

はい、協力確保室で橋本室長の補佐をしています高橋です。

4月に着任したばかりですが、協力確保事務の仕事は実は2回目で、丁度、東日本大震災のすぐ後の平成23年4月から約2年間、係長でたずさわっていました。当時からラジオ放送の業務はあったんですが、局長が発信するツールの一つとして、局長だけが出演していた記憶があります。

本日お伝えする日米交流事業についても、当時は交流するメニューが毎年違っていて、企画の立案や参加者の募集など、いろいろと苦労していたことを、思い出します。

当時とはやり方や環境が違うので、戸惑うこともありますが、室長以下スタッフ全員で毎日楽しくやっていますので、本日は、どうぞ、よろしくお願ひします。

【パーソナリティー】

高橋さんは2度目の勤務とのことですが、確か橋本室長も2度目の勤務ではなかったですか？

【室長】

はい、その通りです。

私は平成30年4月から2年間勤務した後、別の部署へ異動したのですが、昨年4月から再び協力確保室で勤務しています。

【パーソナリティー】

そんなベテランのお二人に、日米交流事業について、お聞きします。

では、早速ですが、今年度はどのような交流事業を計画しているのですか？

【高橋】

はい、日米交流事業とは、米軍基地が所在する市や町の地域住民の方と米軍関係者との交流を行う事業で、毎年実施しているものです。

今年度も、青森県に所在する米陸軍車力通信所と米空軍三沢基地の周辺で行う予定です。

まず、7月には、青森県つがる市において、かかし作りを通じた交流プロジェクトを計画していて、米軍人と地元の小学生と一緒に「かかし」を製作します。

つがる市立車力小学校では、5年生が稲作に関する授業を進めていて、田植えや稲刈りといった体験学習が行われますが、この一環として、米軍人と一緒に「かかし作り」を体験するというものです。

米軍人も日本の稲作文化に触れながら、地元の児童と交流が図れると、毎年好評のイベントなんです。

【室長】

先程の田植えの体験学習なんですけど、6月上旬に行われまして、米軍5名がボランティアとして参加しまして、児童と一緒に田んぼに入って田植えを通じた交流がありました。

東北防衛局では、この田植え交流にあたり、小学校と米軍との連絡調整のほか、当日の案内や通訳支援を行いました。

【パーソナリティー】

皆さん田んぼに入ったんですか。それは楽しそうですね。

【室長】

はい。私も4年ぶりに一緒に田植えをしたのですが、児童も米軍人も顔に泥をつけながら楽しそうに交流していました。

参加した児童からは「英語で話しながら一緒に田植えが出来て楽しかった。」また、米軍人からも「初めて田植えをしたが、とてもリフレッシュ出来た。」ですとか「今後どのように稲が成長するか楽しみ。秋の稲刈りにも是非参加したい。」といった感想があり、皆さんとてもエンジョイしていました。

【パーソナリティー】

「かかし作り」も同じメンバーで行うことになるのですか？

【高橋】

はい。5年生の児童は同じですが、米軍人は、任務の関係もあるので、参加者はまだ分かりませんが、田植えに参加した5名の米軍人は出来るだけ参加したいと言っていました。

【パーソナリティー】

「かかし」は何体作成して、その後どうする予定ですか？

【高橋】

はい。参加者を日米混合の6グループに編成して、「かかし」を6体作ります。その「かかし」は、つがる市役所、つがる市北消防署、車力小学校に展示して、一般の方々に投票してもらいまして、コンテストを行います。

このコンテストは8月いっぱいまで行いますので、お近くに来られた際には、是非投票をお願いします。

展示終了後は、稲刈りが終わるまで、田んぼで「かかし」本来の任務についてももらいます。

【パーソナリティー】

なるほど。とても楽しそうな交流イベントですね。

【室長】

ちなみに、昨年と一昨年はコロナ禍のため、リモートで「かかし作り」を行ったんです。

会場を2つに分けて、児童と米軍関係者はテレビモニター越しに「かかし」のポーズや飾り付けのアイデアをそれぞれ出し合いながら、交流を図りました。握手やハイタッチなどが出来なくても、お互いに交流を楽しんでいるようでした。

【パーソナリティー】

なるほど。他の地区での交流事業はどうですか？

【高橋】

三沢基地周辺でも交流事業を行っていますが、今年の1月には、青森県三沢市において、日米交流パラスポーツ運動会を実施しました。

日米の児童と保護者による混合4チームを結成して、ボッチャや車椅子バスケットボール、車椅子リレーで勝敗を競いました。

3月には青森県東北町において、日米交流ひな祭りを開催して、日米の親子約50人が集まり、万華鏡や折り紙でひな人形を作ったり、琴や着付けの体験、餅つきで交流を深めました。

どちらも今年度の事業は、これから計画していくこととなりますが、また、近くなりましたら、お知らせしていきたいと思えます。

【室長】

実は、三沢市の交流事業については、これまで「アイスホッケー」という地元の特産品を模した道具で、日米の小学生が長靴でアイスホッケーを行うイベントをやっていましたが、昨年度は、会場のアイスアリーナが改修工事のため使用できないということで、急遽、パラスポーツ運動会に変更して、初めて試みたイベントでした。

三沢市は、障害者スポーツに力を入れている自治体で、会場となった三沢市国際交流スポーツセンターは、東京パラリンピックの選手が調整場所に使用できるほどの施設で、車椅子などの用具類は、会場の備品をお借りして実施することが出来ました。

パラスポーツ運動会の参加者からは、「言葉が通じなくてもスポーツの力で交流できた。」とか「予想以上に楽しかった。」との感想をいただきました。

【パーソナリティー】

スポーツに言葉はいららないんですね。ひな祭りの方は何かエピソードはありますか？

【室長】

私の個人的な話になるんですが、このイベントに参加した米側の保護者の方から、自分と娘が映っている写真がほしいと、人伝に相談がありまして、教えられた米軍の窓口の方に連絡を取ったところ、以前、私が三沢防衛事務所に勤務していた際の知り合いでして、約15年ぶりにお話しすることが出来ました。

私としても、異動後はその方と業務上の繋がりがなく疎遠だったものですから、今回思いがけず、お話しが出来たことは、とても嬉しかったです。

【パーソナリティー】

なるほど。そんな偶然もあるんですね。

本日は、日米交流事業について、橋本室長と高橋補佐からお話を伺いました。ありがとうございました。

【二人】

ありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆さまからご意見・ご感想を募集しております。お聞きのコミュニティ放送局までご連絡ください。